

第 16 回理化学研究所バイオリソースセンター遺伝子材料検討委員会
(平成 29 年 9 月 1 日開催)
評価・助言・提言

■ 前回指摘事項への対応状況はどうか

- 充分行っており、適確に対応している。

■ 十分な実績を上げているか

- 品質管理が向上しており、提供リソースの不具合を根絶した。少人数で非常によく対応している。
- 提供数、利用者数も順調に伸びている。
- 広報活動、寄託依頼もよくやっている。
- 利用の少ないバイオリソースも重要なものなので、宣伝に努める他、保存もあきらめずにやって欲しい。
- 大部分のリソースについては十分な実績を上げているが、リソースの収集については基準を広げる方向も検討して頂きたい。コストや場所などの制約が存在すると思うが、将来のニーズだけで選択するのではなく、希少性や独自性も考慮し、配列情報がなくても、収集後に配列解析できるように研究設備を整備していくことが重要であると思われる。
- つくば大学大学院プログラムは非常に価値が高い。大変だと思うが是非推進してほしい。

■ 計画に足りない点はあるか

- 「利用価値」の高い材料を重視するのは重要だが、「潜在価値」にも注目し「カタログ作り」的な事業も存続させて欲しい。
- ゲノム編集技術は非常に速いスピードで進んでいる。当初計画をそのまま進めるのではなく、広く睨んで進歩があればそれをただちに取り入れる体制が望まれる。
- 網羅的な CRISPR-Cas9 Library の提供も計画に入れてもよいのではないか
- 更なる情報発信に期待したい(論文発表やプロトコール集などを執筆しているユーザーに原稿をお願いするなど)。
- 広報に Twitter, Facebook を活用しては如何か？

■ その他

- ライブラリーについては、スクリーニング法や新たな作製法の研究開発が望まれる。
- ゲノム DNA の提供先はもっと広がるだろう。ロングリードが主流になりつつあり、高分子・高純度 DNA の需要は高いと思われる。
- BRC の存在を Scientific Community へもっともっと知ってもらうことにより、努力が報われると思う。
- 展示ブースでは、「提供依頼数の多いリソースに関する最新動向」を示し、広く使われているリソースをまだ使ったことがない研究者の関心を促すような宣伝をしては如何か？

以上